

# SSKR

## CIL東大和通信

おめでとう  
20  
号

編集 NPO法人 自立生活センター・東大和  
〒207-0014 東京都東大和市南街1-22-6 シティコート南街1F  
TEL : 042-567-2622 FAX : 042-567-2912  
EMAIL : cil-ymt@violin.ocn.ne.jp  
発行所 東京都世田谷区砧 6-26-21  
障害者団体定期刊行物協会 定価 100円



2010.10.24 くつかえそう 大運動会より

1. CIL東大和総会	p2
2. 呼ネット Café	p3
3. 地域自立支援協議会	p4
4. 防災イベント…市民講座 大震災に備えて～障害当事者の体験談を聞こう	p5,6
5. 第一・第四中学校車椅子体験	p6,7
6. みんなの作品展	p8,9
7. さあ、くつかえそう 運動会	p10,11
8. ユースパワーネット	p11
9. 10.29 全国大行動	p12
10.	p13

# 1. CIL 東大和総会

2010年6月25日(金) 13:00からCIL東大和総会が行なわれました。

- ・出席者及び委任状
- 理事 7名 (過半数)
- 会員 11名 委任状 16 (過半数)

議事は理事の紹介、2009年度事業報告、決算・監査報告を終え、今年度の事業計画へと続きました。  
今年度の事業計画について；

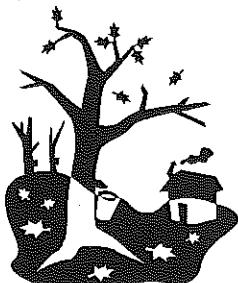
- 自立生活プログラム (ILP) は、大運動会実行委員会、昨年度から参加しているみんなの作品展への出展といった二点が新しい試みとして計画されています(実施済み)。
- 移送事業は、車の買い替えについての話がありました。
- CILが代表を務めている東大和障害福祉ネットワークは、障害者自立支援法により設置された東大和市地域自立支援協議会の代表に選任されました。ネットワークの動きとしては、地域自立支援協議会のほかに、ますますの団体間の連携、ネットワーク内の団体数の増加、多方面での市への提言等、やるべき課題は少なくありません。
- TILベンチレーターネットワーク・呼ネットでは、今年度、人工呼吸器&インターフェイス等展示試着イベント、会員さん同士の交流会である「呼ネット Café」を行い、また、CIL北主催の在宅サポート養成研修と、札幌のベンチレーター使用者ネットワーク、JVUN20周年式典に協力します。
- CILはNPO福祉という連絡会の今年度代表でもあります。NPO福祉は地域福祉推進事業費を受けている団体が集まって市との折衝団体として作った連絡会です。現在は事業費を受けていない団体やNPO法人格を取っていない団体も入っています。最近では、福祉タクシー券を有償運送事業にも使えるようにする要望を挙げたり、勉強会等を開催しています。

そして、今年度からCIL東大和の代表、海老原がTIL(東京都自立生活センター協議会)の運営役員になりました。都内の自立生活センターの意見を取りまとめ、都へ提言を行なったり、都内のCILの交流会、学習会を開催したりしていきます。

最後に人事総務についての報告をした後、2010年度予算案を報告し、承認を頂きました。

その後、質疑応答では、役員の方からCILが市内で果たしていくべき役割についてご意見を頂いたり、理事会・総会のやり方自体について、CILの運営について、ご意見を頂きました。いろんな方々の意見を参考にさせていただき、誰もが地域で暮らしていくように、CIL東大和は全力を尽くしたいと思います。

今後もよろしくお願い致します。



## 2. 呼ネットCafé&Bar



8月14日(土)に新宿のGood Timesというアメリカンレストランで、『呼ネット Café』を行ないました。<呼ネット café>というのは、呼ネット会員同士が情報交換し、親睦を深める交流会のことです。

今年で2回目の開催になりますが、参加者は、事務局の小田、海老原、小日向、鰐原、浅野、会員さんはゆきさん、うらさん、と合計7人(それにプラス、ご家族、介助者の方)が集まりました。



お店に入ると洋楽が流れ、内装はまるでアメリカに来たかのような雰囲気。会場はレストランの奥まったところにあるパーティールームです。



ゆきさんと、うらさんは第一回目の呼ネット caféに参加していたので、事務局メンバーとはほとんどが顔なじみで、そんなこともあります。久しづりに会ってすぐに会話が盛り上がります。マニキュアの話、絵の活動の話、人工呼吸器に関しての情報交換など話題がどんどん出てきました。

そうこうしていると、ゆきさんが登場。去年筆談だったゆきさんが、なんと呼吸器を使って自分の声で話せるようになっていたんです。皆にとって嬉しくびっくりな事でした。ゆきさんとなかなか会えなかった小日向ですが、ようやく初対面。「話には聞いていたけど、なかなかあえなくて、うわさの人にやっと会えました」とゆきさん談。小日向が非常にかしこまりつつ挨拶をするといった場面も。その後、参加者全員テーブルから離れ、大盛り上がりでした。

さらに、最後のほうは7~8人の人たちがカメラを片手に撮影大会!! レストランの中はアジアスター成田空港に到着のようなフラッシュの雨でした。

呼ネット café の最後で、ゆきさんが書いてきた手紙を読んでくれました。呼ネットと出会ってからのこと、前回の呼ネット café の時と今回の間での気持ちや、行動の違い、今後の展望について2枚もの内容を書いてもらいました。その前向きな姿勢に café の参加者みんなが勇気付けられました。

そして、呼ネット Bar ではオープンテラスのお店で、アルコールありの楽しい第2部となりました。



# 3. 東大和市地場自立支援協議会について

前回の通信でお知らせしたとおり、2009年度末に、とうとう東大和市にも「地域自立支援協議会」が立ち上がりました。

どの自治体でも、運営に試行錯誤している自立支援協議会。さて、立ち上がったはいいけど、委員にはなってみたものの、何すればいいの?? そんな方も多いようで…。

そこで、今年度まず行ったのが、「自立支援協議会学習会!」 8月27日に、兵庫県西宮市の自立支援協議会会长をされている玉木幸則氏をお招きし、「自立支援協議会を活発に運営していくための心得」についてお話をいただきました。

玉木さんは、私が高校生の時からお世話になっている西宮の自立生活センター「メインストリーム協会」の副会長です。内容は、自立支援協議会の仕組みや制度についてなどの堅苦しい話ではなく、「ぼによ」の映画を引用して「人の生きづらさ」から、それを個人の問題（医療モデル）から社会の仕組みの問題（社会モデル）に転換する大切さまで、笑いあり涙あり?の楽しくて貴重なお話を伺いました。

今回は、普段よりもぐぐっと傍聴席も多く設定し、傍聴者も質疑応答ができるようにするなど、市と事前に打ち合わせて、なるべく多くの方に「自立支援協議会とは何か」を知っていただける機会にしてみました。

それを受け、今後、東大和市の自立支援協議会をどのように運営していくかを協議するために、11月29日に今年度第2回目の自立支援協議会を開催します。

内容について、障害福祉課の課長、係長と何回も打ち合わせをしながら決めていますが、基本的には、会長である私の意見をなるべく採用してくださる姿勢なので、ありがとうございます。

本来自立支援協議会は、相談支援事業所が中心になって、障害を持つ人の「生きづらさ」を、さまざまな立場の支援者で共有して協力して解決しましょう、という機関です。しかし、東大和市には、精神障害者の相談支援事業所しかありません。まずは、身体・知的の障害者の相談事をどこがどんな風に取りまとめていくか、そこから組み立てていかなければなりません。

どこの自立支援協議会でも、相談ケースが自立支援協議会にまで上がってくるルート作りが最も難しい、と言われています。誰かに困っていることを相談する、というのは、とても勇気の要ることです。本当に自分の立場に立って問題解決に臨んでくれるか、信頼関係が問われます。中途半端にかかわることも、逆に失礼です。また、個人のケースから、社会の仕組み作りに発展させる大きな視野も必要です。

常に相談者の立場に立った、優しくしなやかな自立支援協議会を目指して、ひとつひとつ積み上げていきたいと思います。

(海老原)

# 4.市民講座 大震災に備えて ～障害当事者の体験談を聞こう～

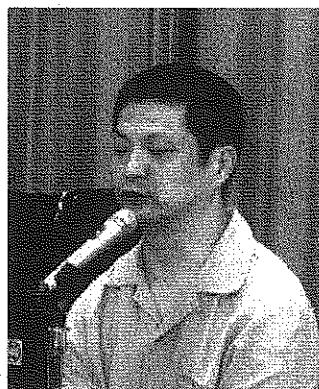
『市民講座 大震災に備えて～障害当事者の体験談を聞こう～』というイベントを開催いたしました。

当日は、37名の参加者の方に足を運んでいただきました！2010年8月28日(土)14時より上北台公民館にて。

## ◆第一部◆ 講演会 大震災に備えて ～障害当事者の体験談を聞こう～

兵庫のメインストリーム協会から、1995年の阪神淡路大震災の被災者でもある玉木幸則さんを講師としてお招きました。なんと玉木さんは、NHK教育テレビで放映中の「きらつといきる」という番組で案内役(レギュラーの司会者！)も務めていらっしゃいます。

震災発生時、就寝中だった玉木さんは長時間瓦礫の下に生き埋めの状態で発見されました。就寝時の姿勢が少しでも違っていたら命を落としていたかもしれませんったそうです。また、ご近所のかたがたと交流があったため、火災などの二次災害が起きる前に発見してもらえたのです。



玉木さんの体験は、そのような数々の偶然が重なったための生還劇であり、また、近隣の住民との日頃からのかかわりあいがとても大切だということがよく分かるお話でした。その後の避難所、仮設住宅での生活は、バリアが多く、健常者でもストレスフルな環境のなかで、障害者にとってはなおのこと厳しいものだったというお話もありました。玉木さんの話はユーモラスな表現も織り交ぜながら、かつ分かりやすく、とても興味深いものでした。

## ◆第二部◆ 東大和市の対策状況 (東大和市防災安全課、東大和市社会福祉協議会)

現在の防災計画が6年前に作られたこと、その計画では要援護者に当たるであろう対象者リストの中に障害者が含まれていないことなどから、不十分な内容であるというお話があり、今後平成24年までを目処に改訂をおこなうという説明もされました。また、市と社会福祉協議会のお話に対し、個人情報保護の視点から、要援護者リストの充実が阻まれていることに、不安を訴えかける障害者のご家族からの意見もありました。

また、会場には普段見ることのできない防災グッズを多数展示しました。休憩時間に皆さんのが興味深く手にとる姿も見られました\*



いつ起きてもおかしくない大震災のために、  
障害者として障害者の支援者として、  
自分たちでできることはまつりと積み、  
行動がおこなっていくべき振舞の点を正しく理解し、  
対策をとていきましょう！！

兵庫より遠路はるばるお越しくださった玉木さん、ご協力クダサイマシタ手話通訳の皆さん、防災安全課の方、社会福祉協議会の方、そして参加者の皆さん、どうもありがとうございました。(高沼)

## 5. 車イス体験学習の報告

8月30・31日、9月2日の3日間、今年も東大和市ボランティア会の皆さんと、東大和市第一中学校と第四中学校で車いす体験学習を行いました。

今年はCIL 東大和の会員さんにも協力をお願いして、日々の暮らしの事、言語障害の苦労について、障害になる前と今の生活の違いや気持ちの変化等を話してもらいました。

今年は地球温暖化の影響だったのか、35度以上の毎日が続いていたので、大型扇風機を何台も準備してもらい、体温が上がるのを防いだりしました。

そのお陰で体調を崩すことなく、無事に学習を進めることができました。

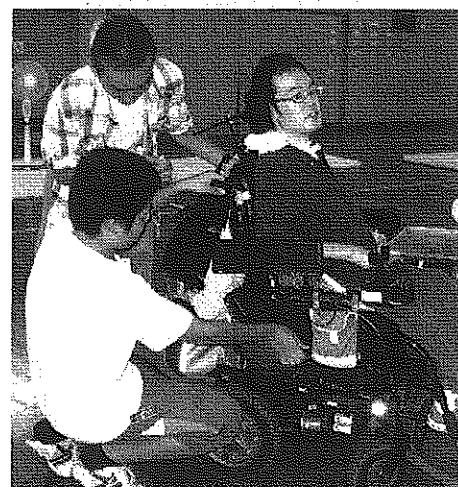


授業の後半は二人一組になって交代で車いすに乗り、体育館内にマットや椅子を並べて障害物を作り車イスでの障害物を体験しました。その後、体育館から校内や校庭に出てみ

ました。体育館内ではスムーズに車いすを操作出来た生徒も、外に出てみると砂利や、小さな段差に前輪が引っ掛かり、苦労する場面も。

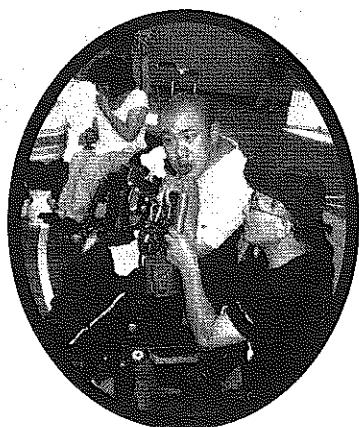
後日学校から頂いた生徒の感想文では、「車いすに乗っている人は、足だけが悪いと思っていた」「自分の体を車いすを押す人に預けなければならないのは大変だと思った」「車いすは遊園地のアトラクションみたいで楽しそうと思っていたが、乗ってみたら怖くて恐怖だった」「押す人との信頼関係が大事だと思った」等、中学生らしい素直な感想を聞けて、とても嬉しく感じま

した。驚いたのは、感想文のほとんどが丁寧な文字で書かれていたこと。まさに授業に取り組んでくれた生徒たちに感心しました。



これからもこのような出会いの時間の積み重ねによって、障害は特別なことではないことに気づき、誰にとっても温かく住みやすい町に繋がることになるのではないか・・・。

(田渕)



## 6. みんなの作品展

2010年10月8日(金)、9日(土)に東大和市中央公民館ホールで行われた「みんなの作品展」。CIL 東大和は、今年で2回目の出展でした。

「みんなの作品展」とは、東大和市ボランティア会主催(後援:東大和市社会福祉協議会)のイベントで、市内の高齢者、障害児・者の施設、共同作業所、団体、またボランティア活動をしている人達が、日頃の活動の中で製作した作品を一堂に会して展示、発表します。

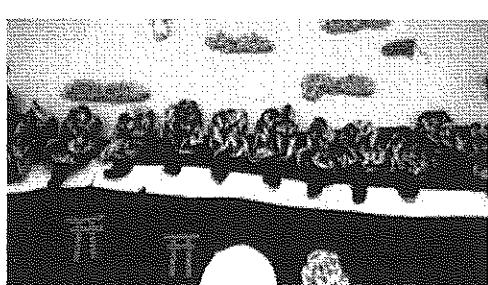
昨年は、「2009 ASIA TRY in 台湾」の活動報告を、縦横180cmのパネルに掲載、展示しました。

そして今年取り組んだのは、同じく縦横180cmの大きさで作る「東大和市内の地図」。

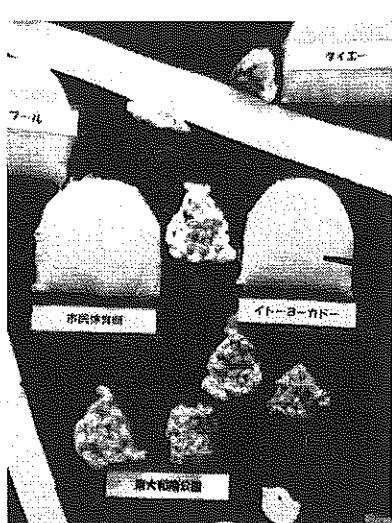
昨年みんなの作品展に参加した際、出展していた市内約25の団体が、どこにあるのか分かるものがあったら面白いのではないか…と考えたことがきっかけでした。



もちろん、ただの地図では面白くないので、見た目が分かりやすいだけではなく、手で触っても分かりやすいように、建物や木を全て立体的に作り、さらに建物の種類毎に違う手触りの布を使い、建物名に全て点字プレートをつけました。



私たちのCILです



利用者さんたちと地図作りに必要な材料を買出しに、日暮里へ出かけたのが6月。その後も、月に2回は集まり、地図に貼る建物や木々などのパーツ作りをこつこつと積み重ねてきました。

桜ヶ丘周辺です

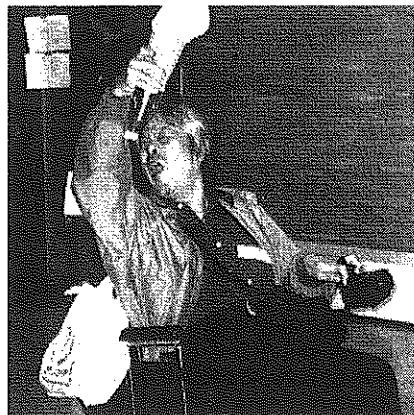
約4ヶ月をかけて完成させた地図は、みんなの作品展でも、来場した方たちからご好評の声を頂きました。普段、CIL 東大和では何かの作品を作る活動はしていないので、「みんなの作品展」ではどのように参加ができるか迷いましたが、目標を決めてひとつのものをみんなで協力して作るというの達成感があって良いものですね。

(小林)

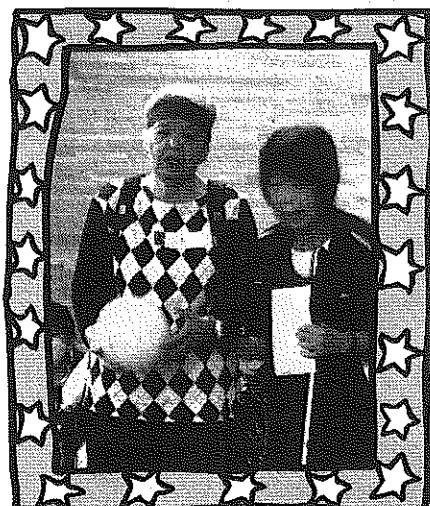
# 1. さあ！くつがえそう！！大運動会！！

10月24日(日) 同胞援護会のさやま園体育館をお借りして、CIL 東大和・昭島合同で『さあ！くつがえそう！！大運動会』を行ないました。当日は薄曇り。少し肌寒いくらいでしたが、午前10時をまわると、さやま園の体育館にはもう30人以上の人だかりが。なんと最終的なカウントで参加総数63名っ☆実行委員会で準備を重ねてきましたが、「当日参加者が40名くらいればなんとか開催できるね」という話をしていたので、これは非常に嬉しい計算外。冷えた体育館内も参加者の熱気でにわかに暖かくなりました。

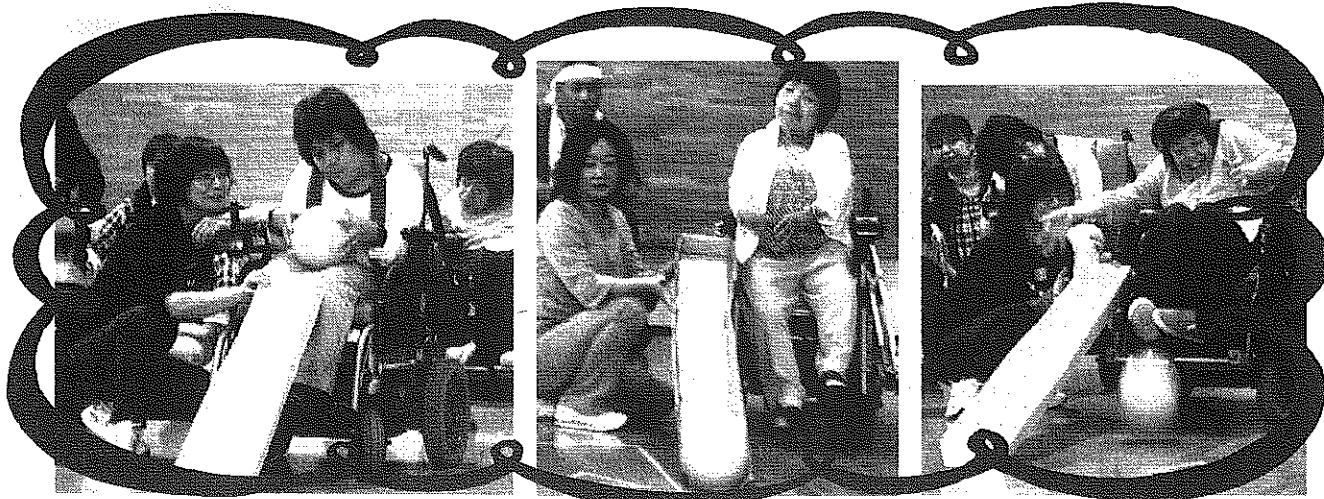
やがて、10時半に開会式が始まりました。実行委員長、小日向の開会の挨拶の後、さやま園園長宮本さんのお言葉をいただきました。その後、選手宣誓の時にサプライズが。体育館の電気が消えたかと思えば、CIL 昭島の吉澤さんが電飾の聖火を持って入場です。実は実行委員の1人Gさんが作ったものでした。そして、力強い選手宣誓を聞いた後、赤・白組に分かれての真剣勝負です。



## 第1の競技 ボッチャ



まずは実行委員の富澤さんが競技説明をしてくれました。ボッチャのルールは、お手製のスロープを使い、3段組のフラフープの中にボールを入れると点数が加算されます。フラフープのどこに入ったかで得点が違うのがポイントです。紅白5人ずつの選手が出場して、1人2投行なうことができます。残念ながら2投とも外れてしまった人も、運よく？(いえいえ、実力で) 2投とも的中した人もいましたが、最初の競技だけあって、感覚をつかむのが大変。2投では少なかったのか、ボッチャは思ったよりも早く終わってしまいました(^^ゞ。

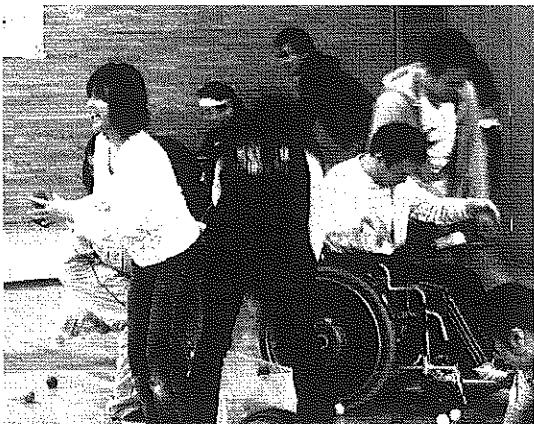


## 第2の競技 車イス玉よけ

この競技は攻めチームが特定のエリアからボールやお手玉を投げて、守りチームの人が、車イスにバケツを付けて避けているので、そのバケツの中にいくつ玉を入れられるかで点を競う競技です。



ここに入ります



1回の表は赤組の攻撃でした。最初は慎重に投げていたので、時間が掛かったのですが、裏の攻撃からは弾が飛び交い、お祭り状態でした。合計140球の玉をまとめては投げ、拾い、またまとめては投げ、繰り返し。玉をよける側は、玉の土砂降りの中をよけ続けていました。結局両チーム100球近くの玉を入れることが出来ました。

これで、午前の部は終了し、昼食タイムに突入します。



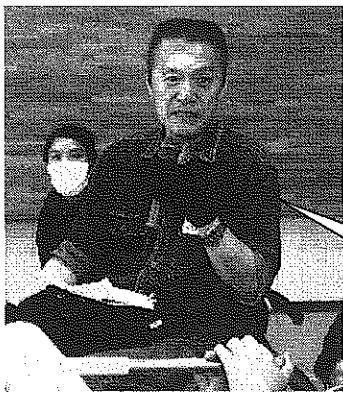
## 昼食&エアロビタ~化



お昼休みは、おにぎりセットでした。みなさん、おいしかったですか～？？

その後、12時半にお昼のメインイベント、さやま園エアロビチームのパフォーマンスを披露してもらいました。運動会を盛り上げるために、忙しい時間を縫って練習をしてくださったそうで、会場から手拍子も出たりと大好評でした。

## 第3の競技 PK合戦

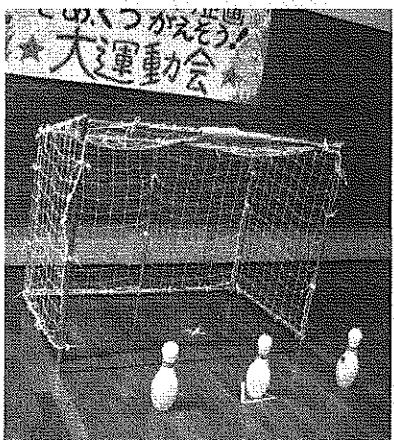


実行委員お手製のすぺしゃるでらっくすキックマシーン、略して SDK ! を使っての競技でした。SDK というのは、鉄棒に装具と靴でつくった足を吊るしておき、振り子の要領でキックを行なう装置のことです。出場選手は SDK の向きや、足の角度などを変えることで自分なりのコントロールをします。

競技説明は、実行委員の  
Mr.Gにやって貰いました。



このキックマシーンが少し強敵でした。白チームは2球に1球くらいはゴールに入るのですが、赤チームは最後に1球なんとか入るくらい。5人の選手が出場して、1人キックのチャンスは1回ということで、非常に難しいものでしたが、外れても入っても会場は大盛り上がりで、チーム対抗ではありましたが、参加者全員が一体になった瞬間でした。



## 最後の競技 リレー

パン食い競争とスラローム、借り物競争を組み合わせたリレーです。パン食いと借り物は運動会の定番。最後の競技ということもあり、各チームとも気合十分で前半からデッドヒートでした。ここまで得点結果は、白組500点台、赤組300点台で、この競技の加点が200点プラスボーナスポイント?点ということもあります、赤組は追い上げる気満々。



しかし、赤組逆転にはわずかに足りず、ボーナスポイントに願いを託し、競技は終了。注目の結果は、閉会式に持越しです。午前中から行なっていた運動会も、いよいよ閉会式。待ちに待った結果発表ですが、司会者がありあつた結果ようやく発表に。

結果は、白組・約644点、赤組・561点。赤組最後の追い上げを見せましたが、前半の得点差が響き、白組の優勝でした。

勝っても負けても、参加者全員笑顔で楽しめていたようで、非常に良かったです。



試合展開としては、一進一退でどちらが勝つか全く分からぬ状況でしたが、中盤白組が半周ほどリードしました。そのまま白組ペースで終わるかと思いつかや、赤組アンカーが頭1つの差で逆転。見事加点200点を手に入れました。



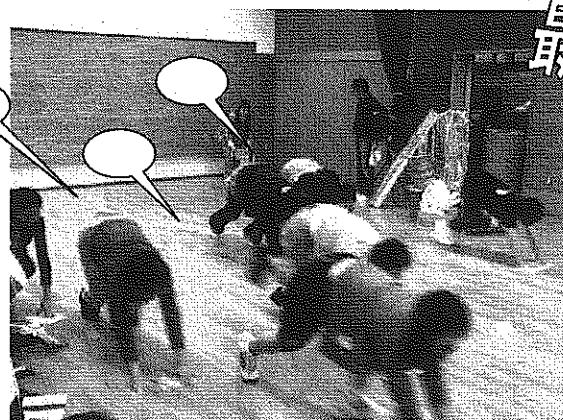
今回の運動会、くつがえそうという名前が付いていました。

私も含め、重度な障害者がスポーツをすること、そして障害者と健常者が一緒にスポーツをすることを本人たちも周りの人も難しいと思っているという現状があります。また、CIL 東大和に限って言えばイベントは毎年同じイベントを繰り返し気味で、新しい試みが求められていました。そういうったもろもろをくつがえそうという意味がこめられていました。参加者をはじめ、運動会に関わっていただいた方の心の中でも、少しでもそんな現状がくつがえっていたらよいなあと強く思います。

CIL 東大和・昭島合同としては、初めての試みである運動会。無事怪我なく終了となりました。

今回の運動会を行なうにあたって、本当に様々な方にご協力をありがとうございました。実行委員の皆様、今回はじめて外部団体に施設を開放してくれたさやま園の皆様・車イス用トイレを快く貸してくださったひかり苑の皆様、休日にもかかわらずおにぎりセット60個を作ってくれた、玉よけの玉やPK用のゴールを貸してくださった村山特別支援学校の皆様、参加者の皆様、ご協力ありがとうございました。

(小日向)



最後は健常者メンバーによる  
お披露目♪☆

さやま園さん  
ありがとうございました!

CIL 合同企画  
さあくつがえそう!  
★大運動会

実行委員の皆さん。  
お疲れさまで!

# 8. 10. 29 全国大フォーラム

2010年10月29日(金)日比谷野外音楽堂で、「今こそ進めよう!障害者制度改革 自立支援法廃止と新法づくりを確かなものに 10. 29全国大フォーラム」が行なわれました。

曇りと晴れ間の繰り返しのような天候の中、全国各地から障害当事者や、その仲間が集まり、その結果約10000人の人が参加した大きなものになりました。CIL 東大和からは、障害当事者、介助者、フリー参加含め、15名参加しました。

何よりもまず、お伝えしたい朗報があ!!なんと、CIL 東大和の海老原代表がフォーラムの司会を行なったのです。大抜擢☆



…コホン(気を取り直して)、最初は厚生労働省 岡本充功政務官の挨拶があった後、アピール文を読み上げ採択されました。挨拶の中に障害当事者の人と一緒に制度をつくっていくという内容がありましたが、政務官は挨拶が終わるとアピール分の採択を待たずに、足早に会場を後に…。冒頭からのこの姿勢、本当に制度を一緒につくっていくつもりはあるのでしょうか…。

反貧困ネットワーク 湯浅誠事務局長からは、障害当事者がデモ等の運動を行なう際の、種別を問わない連帯力が素晴らしいという趣旨の激励をもらったり、障害者自立支援法訴訟の基本合意の完全実現をめざす会 竹下義樹弁護団長によって、改めて新法つくりを達成する決意が述べされました。

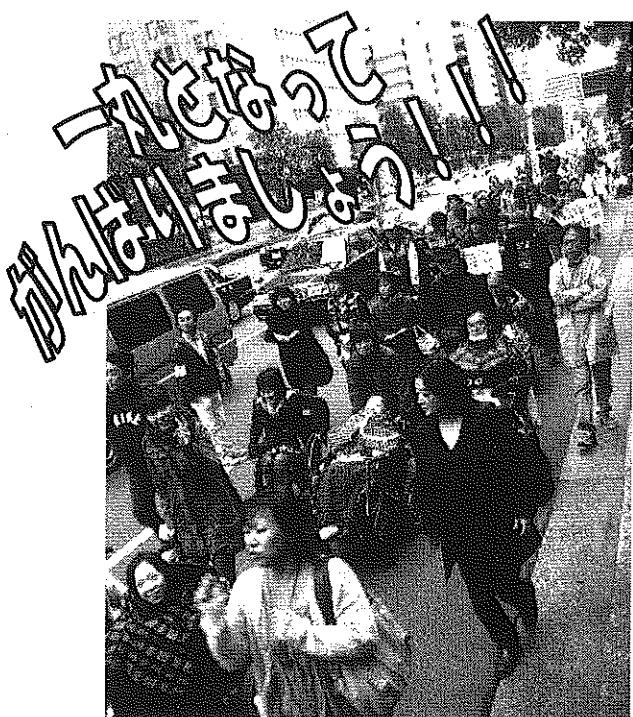
また、新法つくりに向けての途中経過や、展望について障がい者制度改革推進会議・東室長より報告後、各団体のアピールや、各出席政党の議員からの発言と続き、一部は終了。

2部は、国会前と東京駅までの2コースに分かれ、デモ行進をしました。

民主党政権成立後、内閣府に障害者制度改革推進本部が置かれ、その中に推進会議が発足しました。今後の福祉、教育、就労、医療等の総合的な障害者施策だけではなく、障害者基本法の抜本改正から、

差別禁止法制定までの検討が行なわれています。推進会議の委員が半数以上、障害者系の団体の委員で占められていることについては、非常に驚きを感じています。そのように、前向きな方向に向けてきた中、鳩山首相から菅首相に代わり、長妻厚生労働大臣が細川大臣に代わるといったことがあり、推進会議ができた時の勢いが弱くなってしまいました…。

そんな中、行なわれた大フォーラム。推進会議が出来たことは、非常に喜ばしいことではあります、まだ新法成立に結びついたわけではなく、政情不安定な中、まだまだ気を抜くわけにはいかないようです。今後も全国の障害当事者と仲間達が、「私たち抜きで、私たちの事を決めないで!」というスローガンに基づいて、連帯し、訴え続けていくことが重要なことです。



編集後記

東大和通信ももう20号に突入です。東大和通信が20周年ではありませんが、2010年で20周年を迎えたものを調べてみました。

東西ドイツ統一から20周年、サンリオピューロランドが開始20周年、全線開業となったJR京葉線が開業20周年、TVやマンガでおなじみの「クレヨンしんちゃん」が連載20周年、バンドBEGINが20周年です。CIL 東大和も来年で10周年。記念式典? やるのかな??

前号の一大決心は諸事情により、掲載できなくなりました。すみません (T\_T)

それでは、また。小田向

### <会費納入のお願い>

NPO法人 自立生活センター・東大和は皆様の会費が運営資金となっております。今後も障害を持っていても自分らしい地域生活を送るために必要な様々なサポートを提供していくためご協力をお願いいたします。

個人会員：3,000円／1口

賛助会員：3,000円／1口

団体会員：10,000円／1口



#### <受付時間>

平日 9:00～18:00

\*緊急連絡はいつでもつながります\*

〒207-0014

東京都東大和市南街1-22-6 シティコート南街1F

TEL: 042-567-2622

FAX: 042-567-2912

EMAIL: cil-ymt@violin.ocn.ne.jp

